

名古屋市

西部地域療育センターだより

No. 8

正面壁画「友情」より

西部地域療育センターとしてのスタート

所長 石川 道子

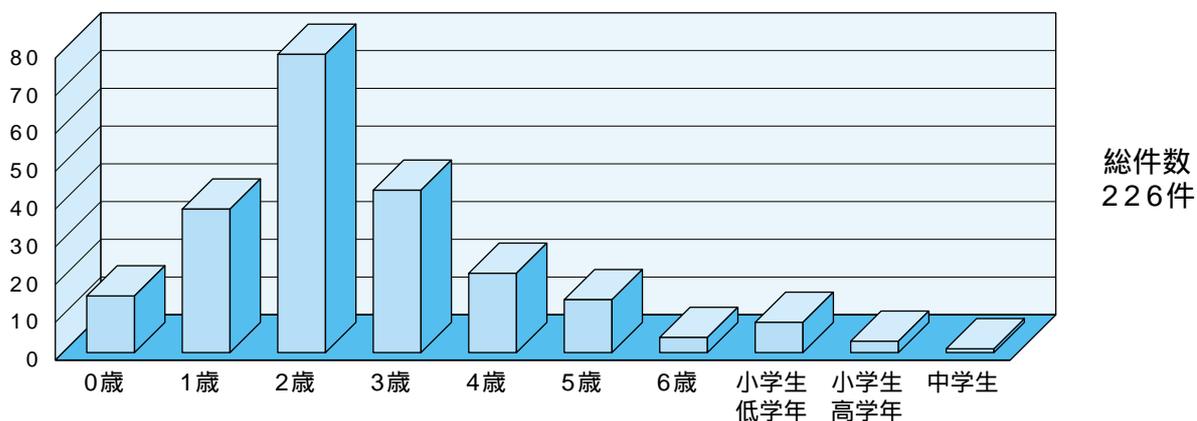
4月が待てなかった今年の櫻の開花でしたが、花見ではなくても春は気分が高揚します。そんな春爛漫の4月に、新しい地域療育センターが西区に開設となりました。北部地域療育センター「コスモス」です。それに伴い、わがセンターは西部地域療育センター「キララ」に名称変更となりました。これで、市内の地域療育センターは3つになりました。お互いに協力し合いながら、名古屋市の地域療育に貢献できるといいなと思います。

思えば10年前の4月に、名古屋市ではじめての地域療育センターとして開設された当時のセンターは、職員一同ドキドキでした。この10年は、どんな仕事をしていったらいいのか誰も分からない状態で、これでもいいのかなという不安を抱えながら、「地域に根ざした療育」を実体化していく挑戦の日々でした。今までな

かった事業を実践していくことは、様々な困難を一つずつ解決することと同時に、理想を如何に実行可能な形に変化させるかという作業でした。西部、南部の実践の中で獲得した知識を参考にし合いながら、また新しくスタートされた北部のフレッシュなやる気に刺激されながら、それぞれの地域の地域特性を生かした療育が確立できればいいなと願っています。

今年の秋には10周年の区切りとなる記念事業を計画しています。この10年で、療育の考え方も変化が見られます。支援費制度を含め、様々な新しい情報を知っていることも地域療育ネットワークに不可欠な条件です。センターだよりが、そのお役に立てるような情報発信になればと思っています。

平成14年度新規相談の概要(1) 年齢別新規相談件数



年齢別新規相談件数

(単位:件)

区	就 学 前 児 童							小 学 生		中 学 生	そ の 他	計
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年			
計	15	38	79	43	21	14	4	8	3	1	0	226

特集 地域療育センター連続講座

地域療育センターでは、地域の保育園、幼稚園、学校、保健所、療育関係者やボランティアの方々と地域療育に関するさまざまな課題について考える機会とするため、毎年度、連続講座を開催しています。地域療育体制の充実とネットワークの形成にお役に立つことができれば幸いです。



平成14年度第3回 地域療育センター連続講座

自閉症について その3

平成14年11月15日 講師 名古屋市地域療育センター 石川道子所長（小児科医）

今日は、日頃の仕事でご協力いただいている皆様に集まっていただきました。ただ、私がいつも診察室にこもりっきりなので、御目に掛かったことのない人もいます。このところ、個別でのお問い合わせが多いのですが、個別では効率が悪く、集まって聞いていただいて、その話をそれぞれの施設や学校で他の人に広めていただくほうがよいと思いましたので、このシリーズも第3回目を迎えることとなりました。

自閉症タイプの子を持ったこと、というか担当したことがない人はここにはいないと思います。そういった子を複数持っている、1つではくれないというか一人ひとりが固有の問題を持っていることがわかります。自閉症タイプというのは、問題の個別性がとても高いとも言えます。だから、その対応が難しいということになるのですが、今日は、その具体的対応を少しでも理解していただけたらと思います。

最近、相談が多いのは、軽度、高機能タイプ、知的に問題なし、対人関係で積極的にこだわっている子、喋り過ぎる子たちのことです。自閉症でも発達の遅れが軽度の子は言葉をもっています。何を考えているか言葉で表現するのでわかりやすい。逆に中度、重度の子は喋らないのでわかりにくい。ところが、軽度だと言っても、対応が軽く済むということにはなりません。全体として、また個々の問題に応じてこういう対応がいいと思っている事をまとめてみました。

1)軽度発達障害に対する一般的対応

軽度発達障害と呼ばれるものに、ADHD(注意欠陥多動性障害)、LD(学習障害)、PDD(広汎性発達障害)、軽度MR(知的障害)があります。LDは小学校に入って

から診断されるもので、予備軍が幼稚園・保育園時代にいます。PDDは自閉症と関係があります。広くとった自閉症と言いますか、認知障害タイプの子です。

保育園の統合保育で一般の場面に入り、学校の普通学級に入っているが、どこかはみ出す、学習に入っていない、教室から飛び出す、床に寝転ぶなど、同年齢集団でみるとはみ出しているといった子たちです。この子たちへの対応には、次のような共通点があります。

問題行動をなくす、減らすことを考える。それは、できることを増やすことです。できること、参加できることが増えれば、問題行動がなくなっていきます。私たちは言葉で指示すると、相手がわかったと思っていますが、この子たちには言葉の指示ではわからない。指示に従えない時は、言葉以外のもので指示する。モデルを見せる。例えば統合保育では周りの子がモデルになるので、それを見せるようにします。一連の作業のごく一部だけをやらせる。カリキュラムの中の全部は無理。それから、集団の流れに乗れない時は個別でみるということになりますが、どの辺を集団全体のプログラムに合わせ、どの辺を個別でみるか。そこを配慮する必要があります。同じ年齢でできない事がある。そういう時は、こちらが評価するものを探してあげます。誉める基準を別個に設け、「席立ちしないで偉いね」「クレヨン握ったから偉いね」等、前に比べて頑張ったから偉いねと個別に配慮する。大人が決める事にももの言ってきた子のいいところをまた評価する。二重基準でやっているところがみせどころです。

2)自閉症特有の対応

自閉症の特徴として、対人関係の障害、コミュニケーションの障害、興味の限局、こだわりの強さがあげられます。対人関係の障害とは人と関係が結べないということですが、軽度の子は結べないわけではありません。コミュニケーションの障害は、3歳の子が5歳の子と関係しようとする場面、また、その逆の場面を思い浮かべてみると、わかりやすいと思います。こだわりは、自分のルールで生きているということです。

対人関係の障害には

対人関係と基準を照らし合わせると、その子がどのレベルかわかります。本人が出来ない事はまわりが工夫する必要があります。対人関係が場面限定のかかわりなので、例えば、なついている子がクラスが替わったら同じ先生でも知らん顔をしたり、医師が診察室以外では無視されたり、非常に驚かれたりすることがあります。普通の子は関係のもち方がより深くなっていくのに、この子たちは違います。食事はこの先生と、トイレはこの先生と、と勝手に決めていて、その場限りの関係のもち方をします。それは本人が決めている事ですので、好き嫌いでやっているわけではありません。

関わる側としては、どうしたらよいか。わかりやす

くするためにこちらが関わる役割、パターンをつくるといいでしょう。レベルがあがってくるとこんな事をしなくてよくなります。家を出ると刺激が多くなり、わけがわからない状態になる。そんな時には、慣れさせるためにパターン化した方法をとるといいのです。

初めての集団に入る時はパターンを作っておけるといいですね。人の動きが読めないため、怒られる、何をされるかわからないと不安がっているのだから、わかるようにしてあげます。

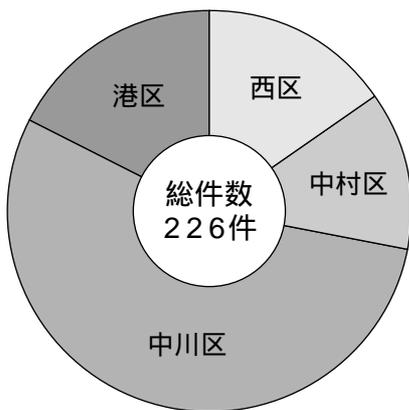
この子たちの内面では、次のようなことが起こっています。

「相手の反応が読めない。自分が集団生活に入れない。慣れない。人がいっぱいいるので怖い。先生が手をあげると子どもが集まる。この意味がわからず見ていた。先生のやることを真似ていた。とても不思議であった。3歳児はこんなことはわかる。外れたところで観察していた。見とれていた時期は半年以上になった。ある先生がやってきて頭をゴツンとやった。どういうことかわからない。自分がわかったのは、外れていると先生が相手をしてくれるという事だった。それからは外れてばかりいた。」

よく何回怒られてもわからない子がいます。先生が面白い顔をして反応しているとしか感じとっていません。誉められるのが好き。気付くのに時間がかかる。怒られていることには気付かず、強い反応としかとれません。自分の基準でしかわからない。声の大きさだけで判断したり、目の大きい人は怒り、細い人は笑っているとか、口元が下がっていると怒っているなど、一部だけを手がかりにしていることもあります。私たちは全体で見ている、一ヶ所だけの手がかりで全体は判断できません。先生が怒ってもそうとれない時があるので、誉める時は で、ダメな時は×と手で表現してやるとよくわかってくれる時があります。 ×以外では「私は非常に怒っている」とそのまま伝え、短めに、はっきりと表現する方法があります。また、子どもの表現が読めずにニコニコしていると楽しいと思いがちですが、笑顔を作っている表情が無難と、ニュートラルな柔和な表情

平成14年度新規相談の概要(2)

区別新規相談件数



年齢別・区別新規相談件数

(単位:件)

区	就学前児童							小学生		中学生	その他	計
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年			
西区	4	3	13	9	2	3		1				35
中村区		6	9	7	2	2	1	1	1			29
中川区	5	26	46	18	12	6	2	5	2	1		123
港区	6	3	11	9	5	3	1	1				39
その他の区												0
市外												0
計	15	38	79	43	21	14	4	8	3	1	0	226

を見せているに過ぎない時があります。これは読みにくい。突然怒り出したりします。原因はその前の段階にあることが多いのです。

本人の表現が独特なのでその場のやりとりが成立しない事がよくあります。聞いてはいるが反応の読みとりができない。「わかった?」と聞くと「わかった」と答えるが、わかったと答えることがわかってただけで中身はわかっていません。普通とは違うやりとりをする。こちらが言い続けていると何年後かにわかってくれる場合があります。こちら側はその場ですぐにわかって欲しいと願うので混乱し、わざとやっていると思ってしまう。例えば「マイクに触ってはいけない」と注意するとその場では触らなくなりますが、場面が変わるとまた触る。別の場面では触ってはいけないとわからなくなってしまう。これはこちらの指示の仕方が悪い。この子たちは先生を困らせようなどと思っはけません。言葉で伝えられない時はマイクを見せない、取り上げる。また、複数の人間が関わるとわけがわからなくなってしまうので、周りにたくさんの方がいない方がいいのです。周りで他の子どもが騒ぐと集中できなかつたり、他児を叱ると自分が叱られていると思ひ違いしたりしてしまいます。全体に声かけすると自分の事ではないと思ってしまうので、個別に声かけする必要があります。自分が喋りたい時に喋るので、この時は話しても何も聞いていません。指導するタイミングを見つける事。そうでないと疲れてしまいます。彼等は思いつきで実行モードに入るので、こちらの指示は入りません。入らないときに指示すると怒らすだけとなってしまいます。

また、基本的には1人でいることが好きです。そして自分のルールが守られている事。友達との遊びはそんなに楽しいと思わず、やらないといけないうから入っていくだけ。嫌がるのを引っ張っても嫌になるだけです。遊びの部分は本人がやりたいと思った時だけ入れる。ご褒美をあげたり工夫して外に出させようとしても上手くいかない時があります。「それ見ろ、外に出たらろくな事がおこらない」と。いい経験をさせるには先生が見ているときに行なう事。関わり方を教えながら大人が介在してあげます。また、わかりやすいいじめは訴えないが、集団の中で不利な役回りになっていることがあります。いい役・悪い役いろいろやらせる。いつまでも鬼をやったりしても本人は苦痛ではないので、「イヤ」を主張できません。これが続くと嫌な思いをすることになります。数字や文字に興味を持つこともありますが、興味も違うし共通点がなく共感しにくい。子ども同士一緒にと強要しない方がいいと思います。

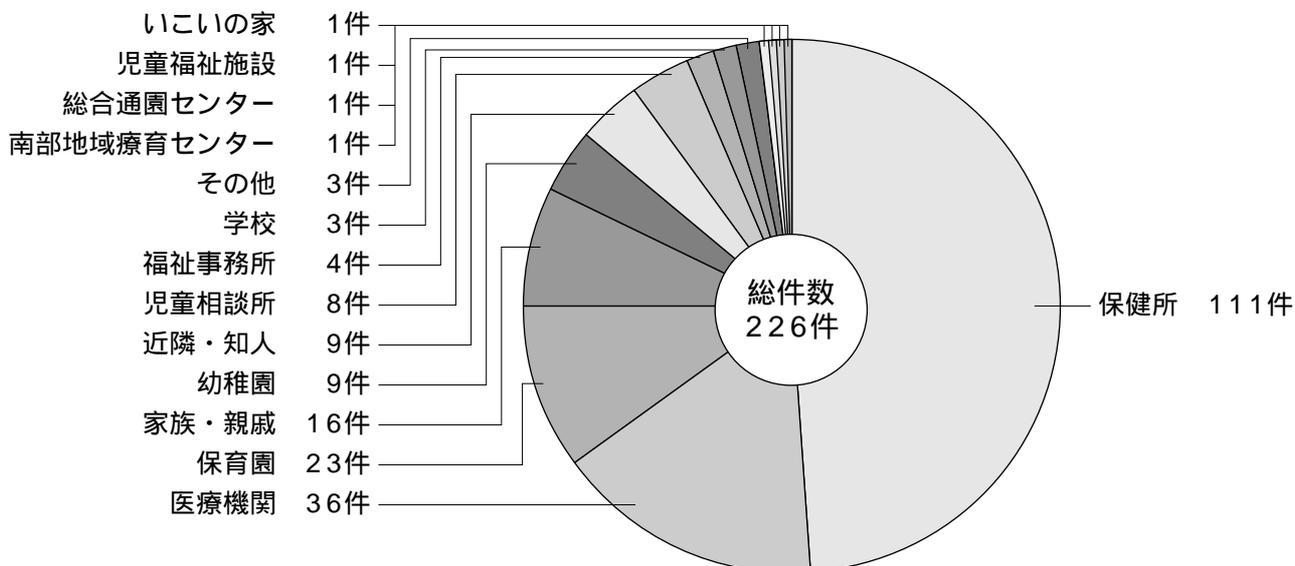
コミュニケーションの障害には

話の一部しか理解できず、都合のよい所だけを聞くので、話し言葉は不利です。また初めての事を言葉で理解させるのは困難なので、モデルを見せるといいでしょう。「イヤ」「やらない」はあまり気にしないでいいのです。「イヤ」は「わけがわからない」と言っているのです。彼等の表現をそのままこちらの常識で考えないようにします。何にでも「イヤ」と答える時期もありますし。

興味の限局、こだわりの強さには

平成14年度新規相談の概要(3)

紹介経路別新規相談件数



こだわりがあるのがこの子たちだと思いますので、そのこだわりを利用するようにします。わけのわかるものを仲介して興味を広げるなどの気をひきつけるために利用する前提があります。例えば、ビデオを止めさせる事ができない時、ビデオが終了したら止めると決める。このとき泣かせる事ができるかどうか。泣けば要求が通ると思うとエスカレートしてしまいます。決めたことは守らせる。向こうのペースに負けるとこだわりを強くするだけです。ある程度こだわりを制限するかどうかで介在したほうがよいようです。パターンが読み込めるからビデオが好き。二回目も同じパターンで来るから好き。同じルールでやるとできるようになります。これができたらシールをあげるとか、スケジュールを決めてやり、こちらの望むかっこうに変えていきます。

同じく配列されているのが気分がいい。プラインドを見るのが好き。私たちと見方が違います。変化を嫌う。こういうところが楽しいと思われるところをつかめるといいですね。本人が偶然わかる事もあります。

3)問題別具体的対応

よく動く、教室にいられない、席を立つ場合の対応

時期はいつか どんな場面か どこに行こうとしているのか を考えると、何のために動いているのかわかってきます。新しい場所がわからないから、場所を知るために動いていることもあります。それがわかってくると、こちらに見通しができてきます。

友達を叩く、引っかく場合の対応

原因は、相手から反応を引き出すためと相手を排除するための二種類あります。これを読み違えると大変。どうしてそれをしているのか、その元が大切なのですがつかみにくい。いろんなパターンを見ているとわかる事があるので、予想に基づいて働きかけをしてみます。予想通りの反応があれば、どちらなのかがわかってきます。

パニック時の対応

原因をなくす事。しかしなくせない原因もありますよね。その場合はどうやって気持ちを抑えるか。例えば人の刺激の少ない所や自分の好きな所に移動するなど試してみます。

発達テストの結果がその子の能力の全てではないため、見かけ上できそうに感じる事が、その子の能力によってはできなかつたりということもよくあります。排泄の例として 場所を移動する 便器に座る 排泄をする などが大きな変化としてあります。私たちは一度にたくさんの事を要求してしまいがちですが、まず場所だけ移動する、できたら次は便器に座る、というように細かいパーツに分けて指導します。ほかの子は一度にたくさんの事をクリアしますが、この子たちは一度に一つの事しかできず、つかえてしまうことが多いのです。

対応に正解はありません。周囲が統一してやってみる事です。うまくつぼに入れば簡単にいきます。うまくいけばすごいと思います。

3-2)問題別具体的対応(出席者の質問から)

Q. 母といると奇声をあげる子がいるのですが…(幼稚園の先生から)

A. 周りからの働きかけをマスキングしている状態だと考えられます。母が何をしようとしているか読めないので、刺激をカットするためにやっているのではと思います。一方的に喋る事は応答性を低くしてしまうので、適当なところでカットするといいですね。

Q. 3歳児で言葉が出ていません。コミュニケーションが少しできてきたのですが、ある時、元に戻ってしまう事があります。赤ちゃんに興味があるのですが、力の加減がわからず、強くあたったりします。どのように指導すればいいですか。(保育園の先生から)

A. できるようになった事、身につけた事も自分にとってのメリットがわからないんでしょうね。「しょうがないなあ」と思ってやっているとはできなくなる事があります。自分にとって利益のある事だけを取り入れようとします。また、大人はできるようになると誉めることが少なくなりますからね。どちらも悪循環の入り口になります。この子たちには触ると反応する赤ちゃんはとても気になる存在です。目や鼻などパーツに触る事も多いので、ダメな所に触るようであれば引き離れたほうがよいと思います。ちょうどいい関わり方は下手というか自然に身につけてはいかないので、そんな視点の中で関わり方を教えてあげてください。

